

令和八年（二〇二六年）午年

新作千支人形

しあわせよし
仕合吉



仏・法・僧の三宝を守護するという神、近世には竈（かまど）の神、火除けの神として祀る「三宝荒神（さんぼうこうじん／さんぽうこうじん）」。「江戸時代は馬の左右と背の上に、三人乗せられるようにした鞍も「三宝荒神」と呼ばれていました。

初代歌川広重と勝川春山の浮世絵には女性や子供が三宝荒神に乗って街道を行く姿が描かれ、初代広重の「東海道五十三次」と三代広重の「東海名所改正道中記」に見える馬たちは、熊除けの鈴をつけて草鞋（わらじ）を履き、屋号や縁起の良い意匠が施された腹当てをしています。三代歌川豊国・初代歌川広重の「双筆五十三次 浜松」に描かれた乗掛馬の腹当は、めぐりあわせ・幸運・運が向くことを意味する「仕合せ（しあわせ）」と、吉（きち）である「よい」ことが相まって、「仕合吉（しあわせよし）」と染め抜かれています。

昔から「旅は道づれ、世は情け」と申します。「旅では道づれ同士が助け合い、世渡りでは互いに同情を持って仲良くやるのがよい」（広辞苑第七版より）。それは今も昔も変わりません。

このたび、人生という長い旅路の安泰と幸運を願い、白馬の三宝荒神に、今戸の昔話で縁起物になった「今戸の河童」と落語好きの文豪が愛した「今戸焼の狸」を乗せて、「仕合吉（しあわせよし）」と名付けた新作の千支人形を作りました。世界の平和と皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます

今戸焼 白井

六代 白井 裕一郎